

第3回社会教育委員会議	
開催日時	令和6年10月28日(月) 午後2時～午後4時
会 場	ふるまち庁舎 4階 402会議室
出席者	<p>【社会教育委員】 今井 岳、小倉 壮平、木村 いほ子、佐藤 裕紀、司山 園美 白神 道子、竹田 暢美、羽賀 万起子、長谷川 雅朗、山岸 則子 計10名 ※敬称略</p> <p>【事務局】 生涯学習センター所長、中央図書館長、生涯学習センター職員2名 生涯学習推進課長、生涯学習推進課職員6名、 計11名</p>
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 報告事項 第24回新潟県社会教育研究大会柏崎・刈羽大会 参加報告について ○報告資料1に基づき、参加者を代表して竹田委員より参加報告を行いました。 【主な質問・意見等】 ・権田先生の活動の男女比についての話はありましたか。 →特にそういう話はなかった。権田先生の研究室の学生が活動に参加していた。学生が入れ替わって活動に入ること、単年度で終わらず活動が継続するようになっているようだ。 ・可能であれば委員の負担を減らすため、今後参加報告は全員がレポートを書くのではなく、代表者が行うようにしてほしい。</p> <p>3 協議事項 第36期新潟市社会教育委員会議の進め方と研究テーマ等について ○協議資料1～2に基づき、事務局より協議資料内容について説明しました。 【主な質問・意見等】 ・昨年度は新潟県社会教育研究大会分科会での発表割当があったが、来年度はあるか。 →新潟県からの依頼は来ていません。</p> <p>4 講話 生涯学習・社会教育の現状について（佐藤議長発表） ○資料1～2に基づき、佐藤議長より生涯学習・社会教育の現状について説明しました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。</p> <p>5 意見交換（グループワーク） ○参考資料1に基づき、事務局より地域と学校パートナーシップ事業と調査研究活動の注意事項等について説明しました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。</p> <p>○今後の調査研究活動について各グループに分かれて意見交換を行いました。 【主な質問・意見等】</p>

内 容	<p>○A「子どもの多様な居場所づくりのための社会教育人材ネットワーク」グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な団体がそれぞれ自立して活動していて、横のつながりを作ってコーディネートする人が少ないと思う。 ・例えばコミュニティ・スクール（以下、CS）は、地域の人も参加するが、年に4回しか会議がないので、そこまで熟議するのは難しい。 ・CS同士でつながりあってもいいのではないか。 <p>→近隣の小・中学校の校長3人で集まって情報交換をしているが、CS同士でつながりあうことまではしていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、山岸委員のように地域教育コーディネーターもしていて、地域の役割も持っているような人が、色々なところを知っていてネットワークづくりの要になりやすいのではないか。 ・生涯学習推進課で全てのCSの内容や課題を把握するのは、数も多いため難しいのではないか。公民館や他の行政の組織がコーディネートのきっかけづくりとなるのがよいのではないか。 ・このグループのテーマは子どもの多様な居場所づくりの社会教育人材ネットワークであり、ここで指す「子ども」は小学生や中学生だけではないのではないか。CSに限って検討するのはテーマとズレるのではないか。 <p>→スタッフ側として動けるようになる大学生などの若者ぐらゐも含めて検討したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講和で社会教育士や社会教育主事の話があった。社会教育主事は資格があっても教育委員会から発令されないと名乗れないことを踏まえると、発令を受けた社会教育主事がネットワークづくりの中心にならざるを得ないのではないか。 ・社会教育主事になりうる資格を持っている方を教育委員会事務局に配置して、社会教育主事として発令し、本来社会教育主事に求められている役割が発揮できる体制を組むべきではないか。 ・子育て世代だと地域での作業が面倒な時もある。仕事もしながら地域活動に関われるようなちょうどよい仕組みづくりが必要ではないか。 ・祭りや餅つき大会などちょっとした仕掛けがつながるきっかけになり、居場所づくりや地域交流や親同士の交流になったりして、いざとなった時に助け合えるとよい。 ・子どもの居場所づくりを公民館も一緒になって考えられるとよい。 ・このグループでは、子どもたちの多様な居場所を有効活用し、どのようにつなげていくか、そしてその核になるのはどういうものを調べるのがよい。 ・中学生のための地域クラブ活動が始まることによって、今まで以上に居場所が必要な子どもたちが出てくると思う。例えば公民館にいる社会教育人材が行っていることの紹介や公民館のフリースペースを積極的に使えとよい。 ・まずは居場所としてどういうところが必要かを洗い出して、そこからどのように人材を育成するか、どのようにつなげていくかという流れで検討するのはどうか。 <p>○B「生涯学び活躍できる社会教育人材ネットワーク」グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟市内の公民館職員と話していると、どうやら各公民館職員がみんなで学び合ったり交流したりする機会が全然ないようだ。 ・地域と学校の連携が謳われているが、公民館などの社会教育分野の職員は、その連携にうまく入れていないようだ。 ・公民館職員と図書館職員の交流はないのか。 <p>→そもそも同じ場所にあるところも多いので、図書館と公民館のつながりはある。例えば、ゆりかご学級で読み聞かせをしたりとか、参加者に読み聞かせの大切さ</p>
-----	--

<p>内 容</p>	<p>を話したりとか、そういう関わりがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟市では、社会教育主事の発令はあっても、国で想定されているような専門職として活動できている方は恐らくいないのではないか。 <p>→公民館では基本的に個々の館に任せている事業を優先して行うので、本人が社会教育主事として発令を受けているのであれば、その力を使って行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政の職員以外で社会教育主事になり得る資格を持っている方については、誰がどのように正確な人数を把握しているのだろうか。 ・公民館に集まる人は大きな意味で社会教育を実践している人たちだと思うが、今は貸館がメインになってしまっているのではないか。社会教育主事や社会教育士が何の仕事をしているのかわからない。 ・国でも色々なことが言われているが、まずは現場で何が求められているかなど、他自治体の事例も調べながら新潟市の現状を把握するのがよいのではないか。 ・そもそも社会教育人材について国が理想としているのは、どこかの国のモデルケースがあって、そこに近づこうとしているのか。 <p>→そういうことではない。今日配布した資料2に載っているが、様々な議論がされる中で、社会教育人材や社会教育施設が連携して担うべきみたいなことがいわれてきているようだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育施設の職員がCS委員に加われれば、地域と連携をとれるのではないか。 ・社会教育人材ネットワークについて、うまくいっている自治体があれば知りたい。 <p>5 閉会</p>
<p>傍聴者</p>	<p>0名</p>
<p>会議資料等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第36期新潟市社会教育委員会議（第3回）次第 ・報告資料1 第24回新潟県社会教育研究大会柏崎・刈羽大会 参加報告 ・協議資料1 第36期新潟市社会教育委員会議の進め方と研究テーマ等について(案) ・協議資料2 第36期新潟市社会教育委員会議 スケジュール(案) ・資料1 社会教育人材の養成及び活躍促進の在り方について(最終まとめ)(概要) ・資料2 社会教育人材の養成及び活躍促進の在り方について(最終まとめ) 参考資料集(抜粋) ・参考資料1 地域と学校パートナーシップ事業の概要